

令和4年度保健科学部 作業療法学科 4学年 シラバス

哲学	・・・P1～
日本国憲法	・・・P3～
英語Ⅲ	・・・P4～
チーム医療Ⅱ（演習）	・・・P6～
卒業研究	・・・P8～
作業療法総合演習	・・・P9～
臨床技能実習Ⅲ	・・・P11～
作業療法発展領域論	・・・P13～
地域作業療法学実習	・・・P15～
臨床実習Ⅴ	・・・P16～

科目名	哲学【保健4】	科目名(英語)	哲学
区分	人文・社会科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	福田俊章		
開講年次	4	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義と討論
受講要件			
授業の概要			
<p>人間は人間であるかぎり誰でも、考えることをやめない。そして、哲学するとは「みずからよく考える」ことに外ならない。「哲学への最良の入門は自分で問題を立てること、自分でその問題を考えることだ」と言われるのも、そのためである。この授業では、そうした営みの実例に触れることで、各人が「みずからよく考える」ようになることを目指したい。</p> <p>「万学の女王としての哲学」などというかつての観念が今日なおも通用するとは思えないが、ロゴスの探求がもっとも自覚的に行なわれた時代の思索を顧みることにはなおも意味があるだろう。哲学の守護聖人とも呼ぶべきソクラテスの「知らないということを知っていること(無知の知)こそ最上の知である」という洞察は哲学的探求のみならず、一般にあらゆる人間の知的探求の核心をついているように思う。</p> <p>この授業では、西欧の哲学について様々な時代の哲学者がそれぞれの流儀で探求した課題を紹介するとともに、受講生が自ら問題を考える機会を提供することを目指したい。</p>			
学習目標			
<p>「いい哲学者になるためにたった一つ必要なのは、驚くという才能だ」(『ソフィーの世界』)と言われるのはどうしてか。「哲学を馬鹿にすることこそ、真に哲学することである」(パスカル)、「人は決して哲学を教わることが出来ず、ただかたか哲学するのを学ぶことが出来るだけである」(カント)とはどういう意味か。こうした問題意識に触れることによって、「一旦は立ち止まって考えてみる」という思索態度を身につける。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		導入:「知を愛する」こと、ロゴスの探求としての哲学	福田俊章
第2回		古代ギリシアの自然哲学:存在と生成変化、水は水のまま水以外のものになる?	福田俊章
第3回		ソクラテス:「無知の知」、「知らない」ということをどうして知っているのか?	福田俊章
第4回		プラトン:イデア論、ただちょっと「忘れていた」だけ?	福田俊章
第5回		アリストテレス:イデア論批判 梅は梅らしく、桜は桜らしく?	福田俊章
第6回		ヘレニズム思想:幸福とは「不幸でない」ことか?	福田俊章
第7回		ヨーロッパ中世の哲学:「理解せんがために我信ず」とは?	福田俊章
第8回		近代哲学の幕開け:人権思想と近代自然科学とに通底するものは?	福田俊章
第9回		デカルト:「我思う、故に我あり」、私に心はあるのか?	福田俊章
第10回		大陸「合理論」と英国「経験論」:我々人間の知識は何に由来するのか?	福田俊章
第11回		カント:「我々の認識は経験と共に始まるが、経験にもとづいて生じるのではない」?	福田俊章
第12回		心身問題:相互作用説と随伴現象説、テレパシーは心の存在を証するか?	福田俊章
第13回		人格の同一性:身体説と記憶説 記憶と身体どちらが入れ替わったのか?	福田俊章
第14回		科学の科学性:検証と反証、反証不可能な主張は科学的か?	福田俊章
第15回		神の存在証明:完全無欠な存在者は必ず存在するか?	福田俊章
テキスト	特定の教科書は用いない。		
参考書	随時資料を配付するとともに、その都度参考文献の紹介に努めたい。		
成績の評価方法	授業への参画態度を評価することに加えて、レポートあるいは論述式の筆記試験を学期末に課すことにしたい。		
その他	専門課程の講義や実習が目白押しで忙しい時期とは思いますが、自分の頭でものを考える機会と思っ		

て御参加ください。

科目名	日本国憲法【保健4】	科目名(英語)	日本国憲法
区分	人文・社会科学系科目	単位数	1.0
担当責任者	元井貴子		
開講年次	4	教室	
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>憲法は私たちの国の基本となる法であると同時に、近年では、憲法改正等も議論されているため、深い理解が求められている。そこで、覚えてほしい基本的用語から、重要な条文や制度が如何なる意義や趣旨に基づくのかという点に至るまで深く講義していく。また、憲法上の問題については具体的な事案につき検討する機会を設け、自分なりの答えを導き出すワーク等も実施する。更に、講義内容を現実の問題としてイメージできるよう、関連する時事問題にもできるだけ触れていく。</p>			
学習目標			
<p>(1)日本国憲法の基本原則及び各制度とその趣旨を理解できるようになる(2)憲法上の争点につき、何が問題となっており、どのような議論があり、どのような意見があるのかを理解し、自分なりの考えを持つことができる(3)人権問題を理解し、他人の人権を尊重できるようになる(4)法的思考力を養い、新しい問題に直面した時に問題の所在を把握し、論理的に考えて妥当な結論を導くことが出来るようになる</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		日本国憲法の基本原理	元井貴子
第2回		基本的人権①享有主体性	元井貴子
第3回		基本的人権②幸福追求権	元井貴子
第4回		基本的人権③法の下での平等	元井貴子
第5回		基本的人権④信教の自由と政教分離	元井貴子
第6回		基本的人権⑤表現の自由	元井貴子
第7回		基本的人権⑥表現の自由の制限	元井貴子
第8回		基本的人権⑦経済的自由	元井貴子
第9回		基本的人権⑧人身の自由	元井貴子
第10回		基本的人権⑨社会権	元井貴子
第11回		統治機構①国民主権と選挙	元井貴子
第12回		統治機構②国会	元井貴子
第13回		統治機構③内閣	元井貴子
第14回		統治機構④裁判所	元井貴子
第15回		平和主義	元井貴子
テキスト	吉田仁美著『スタート憲法(第2版補訂版)』成文堂 2016年3月20日発行		
参考書			
成績の評価方法	筆記試験40%、確認テスト30%、グループワーク実施報告書15%、リアクションペーパー15%		
その他	講義で学んだ事柄に関連するニュース報道に興味関心を持ちましょう。		

科目名	英語Ⅲ【保健4】	科目名(英語)	英語Ⅲ
区分	外国語科目	単位数	1.0
担当責任者	安田尚子		
開講年次	4	教室	ICT教室
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>英語IA,Bおよび英語ⅡA,Bで習得した知識・スキルに基づいて、医療現場で必要となる英語の総合的なコミュニケーション能力の向上を目指す。グループワークの課題とプレゼンテーションを通して特にライティングとスピーキングの能力を高める。ライティングでは、正確で論理的な文およびパラグラフとスライドショーに用いられる文体(箇条書き等)を習得し、相手に意思を伝えるための効果的な表現方法を学ぶ。また、スライドショーを用いたプレゼンテーションを通じて自らが選択したテーマについて発表し、質疑応答や討論に必要なスピーキングスキルを養う。合わせて発声、ジェスチャー、効果的な視覚情報の使用、著作権の尊重などプレゼンテーションに不可欠な知識とスキルを身につける。地元の医療に貢献できるテーマなどを選び、グループワークでのプロジェクトベース型で授業を行う。この授業は4学科合同で行う。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術英語で使用される表現や文体を選び、論理的なパラグラフを書くことができる。 2. スライドショーに必要な英語の箇条書きの方法と文章省略のルールを理解し、書くことができる。 3. 信憑性のある情報を検索・選択し、正しい方法で引用することができる。 4. 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、スライドに基づいて自分の言葉で発表することができる。 5. プレゼンテーションの質疑応答を効果的に行うことができる。 6. プレゼンテーションに必要な発声方法、ジェスチャー、視線などを理解し、自信をもって相手に伝わりやすい発表ができる。 			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		Introduction: Syllabus Ice break activities	安田尚子、久保田 恵佑
第2回		Academic English vs. casual English	安田尚子、久保田 恵佑
第3回		Structure of a presentation: Introduction	安田尚子、久保田 恵佑
第4回		Structure of a presentation: Body	安田尚子、久保田 恵佑
第5回		Structure of a presentation: Conclusion and references	安田尚子、久保田 恵佑
第6回		Avoid plagiarism: How to find and cite references	安田尚子、久保田 恵佑
第7回		Effective slideshow: How to use Powerpoint, find good images and charts	安田尚子、久保田 恵佑
第8回		How to use bullet points	安田尚子、久保田 恵佑
第9回		Make a slideshow: Explanation	安田尚子、久保田 恵佑
第10回		Make a slideshow: Comparison slideshow	安田尚子、久保田 恵佑
第11回		Speaking skills for a presentation	安田尚子、久保田 恵佑
第12回		Nonlinguistic skills: good gesture and eye contact	安田尚子、久保田 恵佑
第13回		Group work: Get ready for your presentation!	安田尚子、久保田 恵佑
第14回		Presentation 1	安田尚子、久保田 恵佑
第15回		Presentation 2	安田尚子、久保田

回		恵佑
テキスト	Michael Hood, "Dynamic Presentations" 金星堂、2007年、ISBN-978-4-7647-4029-7	
参考書		
成績の評価方法	授業内アクティビティ20%、ホームワーク20%、グループワーク20%、ファイナルプロジェクト40%	
その他	プレゼンテーションは聴衆が誰か、目的が何かによってスタイルや手法が違ってきます。それぞれの目的に合わせた効果的なプレゼンテーションの方法を学んでいきましょう。	

科目名	チーム医療Ⅱ（演習）【保健4】	科目名（英語）	チーム医療Ⅱ（演習）
区 分	専門基礎	単位数	1.0
担当責任者	矢吹省司		
開講年次	4	教室	
必修／選択	必修	授業形態	演習
受講要件	無し		
授業の概要			
<p>チーム医療の実践について学ぶ。チーム医療Ⅱでは、呈示された症例を元に医学部と看護学部の学生と共に、小グループに分かれて、自分の職種は何か出来るか、何をすべきかについて討論する。そしてグループ毎に発表する。呈示する症例としては、多彩な症状を呈している、または多様な問題を有しているため診断や治療に多職種で関わる必要がある患者とする。</p>			
学習目標			
<p>(1) チーム医療の目標を説明できる。 (2) チームメンバーと円滑なコミュニケーションを図ることができる。 (3) 各医療職種の専門性、役割および責任を説明できる。 (4) 症例に対して各医療職種が取り組むべき問題点を明確化し、自身の役割と仕事を説明できる。 (5) チーム医療の立場から医療を考え、メンバーと連携して問題解決ができる。 (6) Team STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety)を体験し、チーム医療の重要性を理解できる。</p>			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容（キーワード等）	担当教員
第1回		2学部（看・保）5学科の学生 Team STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety)演習	種田憲一郎 （国立保健医療科学院） 保健科学部教員 看護学部教員
第2回		Team STEPPS演習	同上
第3回		Team STEPPS演習	同上
第4回		症例供覧（全グループ同じ症例） 学科毎のディスカッション	保健科学部教員 看護学部教員
第5回		グループ内自己紹介・職種紹介 グループディスカッション	同上
第6回		グループディスカッション	同上
第7回		発表資料作成 発表&質疑応答	同上
第8回		発表&質疑応答	同上
第9回		振り返りと意見交換	同上
第10回		3学部（医・看・保）6学科の学生 症例供覧 グループディスカッション	保健科学部教員 医療人育成・支援センター教員 看護学部教員
第11回		グループディスカッション	同上
第12回		グループディスカッション 発表資料作成	同上
第13回		発表&質疑応答	同上
第14回		発表&質疑応答	同上
第15回		現場のカンファランス見学 （実際の多職種でのカンファランスを見て、学ぶ。大学病院編） 見学後の意見交換	同上
テキスト	特定のテキストはありません。		
参考書	川村治子、『医療安全ワークブック（第4版）』、医学書院、2018		

成績の評価方法	レポート80%、教員によるグループ評価20%
その他	<p>担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健科学部 矢吹省司（理学療法学科） 森下慎一郎（理学療法学科） 阿部浩明（理学療法学科） 星真行（理学療法学科） 佐藤聡見（理学療法学科） 五百川和明（作業療法学科） 倉澤茂樹（作業療法学科） 林博史（作業療法学科） 川又寛徳（作業療法学科） 高橋規之（診療放射線科学科） 福田篤志（診療放射線科学科） 佐藤久志（診療放射線科学科） 小川一英（臨床検査学科） 豊川真弘（臨床検査学科） 鈴木英明（臨床検査学科） 高橋一人（臨床検査学科） ・看護学部 和田久美子 菅野久美 大川貴子 片桐和子 古溝陽子 吾妻陽子 ・医療人育成・支援センター 大谷晃司 亀岡弥生 安田恵 ・国立保健医療科学院 種田憲一

科目名	卒業研究（作業）【保健4】	科目名（英語）	卒業研究（作業）
区 分	専門科目（基礎作業療法学）	単位数	4.0
担当責任者	五百川和明		
開講年次	4	教室	
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
<p>作業療法研究法演習で学んだ研究のステップに基づき、担当教員の指導の下で研究計画を立案、実行し、その結果をまとめ、結果から得られた知見を整理し、報告するまでの一連の研究技能を習得することを目指す。内容としては、担当教員の指導の下で、研究計画に基づいた実験や計測、介入等を行い、計測データの収集、データの統計的解析及び研究仮説の検証を行う。さらに、研究成果を卒業研究発表会で発表し、最終的には卒業論文を作成する。この一連の研究過程の実践を通して、科学的思考や生涯にわたって研究、学習する姿勢を身に付ける。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究疑問を研究計画に変換することができる。 2. 研究計画に基づき、研究データを収集できる。 3. 研究結果をまとめ、研究仮説の検証ができる。 4. 研究発表ができる。 5. 卒業論文を作成できる。 			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1～5回：研究計画の立案 <ul style="list-style-type: none"> ①疑問の構造化、②文献研究、③疑問のモデル化、④測定デザイン ⑤研究の型の選択、⑥交絡とバイアス、その対処、⑦倫理的配慮 ・ 6～10回：研究計画書の作成 ・ 11～70回：研究活動の実施 ・ 71～80回：研究の中間まとめと後半の研究計画の検討 ・ 81～150回：研究活動の実施 ・ 150～160回：研究結果のまとめ、統計解析、研究仮説の検証 ・ 161～175回：発表資料の作成、研究論文の執筆 ・ 176～180回：研究発表 		五百川和明、林博史、倉澤茂樹、曾根稔雅、澄川幸志、藤田貴昭、川崎伊織、浅尾章彦、石川陽子、川又寛徳、三橋佑平、木村夏実、田中善信、小笠原牧、松本大典（作業療法学科）	
テキスト	福原俊一 臨床研究の道標 第2版（上下巻） 認定NPO法人健康医療評価研究機構		
参考書	友利幸之助、京極真、竹林崇 作業で創るエビデンス 医学書院		
成績の評価方法	レポート100%		
その他			

科目名	作業療法総合演習【保健4】	科目名(英語)	作業療法総合演習
区分	作業療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	林博史		
開講年次	4	教室	講義室
必修/選択	必修	授業形態	演習
受講要件	なし		
授業の概要			
<p>これまで学習してきた作業療法の実践に必要な専門基礎科目や専門科目の知識を統合し、作業療法の高度な臨床実践への応用につながる知識を得ることや、卒業後の生涯に渡って専門職として質の高い作業療法を提供するための主体的な学習を継続する能力の習得を目指す。内容としては、作業療法の臨床事例の検討を通して、病態と障害の理解、チーム医療における各職種の理解と役割、リハビリテーション目標、必要とされる作業療法評価、予後予測と目標設定、エビデンスに基づいた作業療法プログラム等について、グループ学習を通して作業療法実践のための理解を深める。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法事例検討を通して実践的、応用的知識を深める。 2. 卒業後の生涯に渡って専門職として質の高い作業療法を提供するための主体的な学習を継続する能力を習得する。 			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		オリエンテーション 臨床事例検討 身体障害(運動器系疾患)	五百川和明(作業療法学科)
第2回		臨床事例検討 身体障害(運動器系疾患)	同上
第3回		臨床事例検討 身体障害(神経系疾患)	同上
第4回		臨床事例検討 身体障害(神経系疾患)	同上
第5回		臨床事例検討 身体障害(内科系疾患)	同上
第6回		臨床事例検討 身体障害(内科系疾患)	同上
第7回		臨床事例検討 精神障害(統合失調症)	石川陽子(作業療法学科)
第8回		臨床事例検討 精神障害(統合失調症)	同上
第9回		臨床事例検討 精神障害(気分・感情障害)	同上
第10回		臨床事例検討 精神障害(気分・感情障害)	同上
第11回		臨床事例検討 精神障害(神経症性障害)	同上
第12回		臨床事例検討 精神障害(神経症性障害)	同上
第13回		臨床事例検討 発達障害(脳性麻痺)	倉澤茂樹(作業療法学科)
第14回		臨床事例検討 発達障害(脳性麻痺)	同上
第15回		臨床事例検討 発達障害(重度心身障害)	同上
第16回		臨床事例検討 発達障害(重度心身障害)	同上
第17回		臨床事例検討 発達障害(知的発達障害、自閉スペクトラム症)	同上
第18回		臨床事例検討	同上

回		発達障害（知的発達障害、自閉スペクトラム症）	
第19回		臨床事例検討 老年期障害（フレイル、サルコペニア）	曾根稔雅（作業療法学科）
第20回		臨床事例検討 老年期障害（フレイル、サルコペニア）	同上
第21回		臨床事例検討 老年期障害（認知症、うつ）	同上
第22回		臨床事例検討 老年期障害（認知症、うつ）	同上
第23回		臨床事例検討 老年期障害（摂食嚥下障害、低栄養）	同上
第24回		臨床事例検討 老年期障害（摂食嚥下障害、低栄養）	同上
第25回		臨床事例検討 重複障害（脳血管疾患と内科疾患）	林博史（作業療法評価）
第26回		臨床事例検討 重複障害（脳血管疾患と内科系疾患）	同上
第27回		臨床事例検討 重複障害（精神疾患と認知症、ほか）	同上
第28回		臨床事例検討 重複障害疾患（精神疾患と認知症、ほか）	同上
第29回		臨床事例検討 地域在住者支援（閉じこもり）	曾根稔雅（作業療法学科）
第30回		臨床事例検討 地域在住者支援（閉じこもり）	同上
テキスト	なし（授業資料配布）		
参考書	4年前期までの教科書		
成績の評価方法	定期試験50%、レポート50%		
その他			

科目名	臨床技能実習Ⅲ【保健4】	科目名(英語)	臨床技能実習Ⅲ
区分	作業療法治療学	単位数	1.0
担当責任者	川崎伊織		
開講年次	4	教室	作業療法実習室1,講義室
必修/選択	必修	授業形態	実習
受講要件	なし		
授業の概要			
臨床実習Ⅴで求められる、一連の作業療法介入プロセスに関する知識、技術及び態度に関する統合的理解と技術の習得を目指す。内容としては、3年次までに学修してきた知識や技術を再確認・整理しながら、臨床事例を基に作業療法評価及び介入の視点、作業療法プロセス、臨床推論、作業の治療的意味、作業療法介入に必要な技術、態度を学ぶ。臨床実習Ⅴの後は実習経験の振り返りを行う。さらに、臨床実習Ⅳ・Ⅴの学習状況を客観的臨床能力試験(OSCE)で確認する。授業はグループを構成し、作業療法評価及び介入に関する演習および実習を行う。			
学習目標			
1) 作業療法評価及び介入の視点、作業療法プロセス、臨床推論、作業の治療的意味に関して説明できる。 2) 作業療法介入に必要な技術、態度を身につける。			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		【実習前】オリエンテーション 臨床実習Ⅴの学習目標	川崎伊織(作業療法学科)
第2回		学生に求められる知識・技術・態度	同上
第3回		臨床実習Ⅴでの達成目標立案(演習) (施設情報の収集)	川崎伊織・木村夏美・小笠原牧・松本大典(作業療法学科)
第4回		臨床実習Ⅴでの達成目標立案(演習) (目標設定)	同上
第5回		臨床実習Ⅴでの達成目標立案(演習) (実習前学習計画)	同上
第6回		臨床実習Ⅴでの達成目標立案(演習) (学習資料収集)	同上
第7回		事例演習(グループ演習、実習) 対象者のニーズの聞き取り	同上
第8回		事例演習(グループ演習、実習) 対象者の生活歴の聞き取り	同上
第9回		事例演習(グループ演習、実習) 対象者と家族の心理状態	同上
第10回		事例演習(グループ演習、実習) 信頼関係構築に必要なスキル	同上
第11回		事例演習(グループ演習、実習) 作業療法評価、介入の視点	同上
第12回		事例演習(グループ演習、実習) 作業療法のプロセス、臨床推論	同上
第13回		事例演習(グループ演習、実習) 作業の治療的意味(達成感、有能感、自己効力感)	同上
第14回		事例演習(グループ演習、実習) 作業の治療的意味(身体機能)	同上
第15回		事例演習(グループ演習、実習) 作業の治療的意味(精神、心理機能)	同上
第16回		事例演習(グループ演習、実習) 作業の治療的意味(生活機能)	同上
第17回		事例演習(グループ演習、実習) 作業の治療的意味(社会活動、参加)	同上
第18回		事例演習(グループ演習、実習)	同上

回		作業の治療的意味（集団力動、家族関係）	
第19回		【実習後】 臨床実習Ⅴ達成目標の振り返り （演習）	川崎伊織・木村夏実・小笠原牧・松本大典（作業療法学科）
第20回		作業療法の臨床推論（グループ演習）	同上
第21回		作業の治療的意義（グループ演習）	同上
第22回		事例報告について	同上
第23回		事例報告書作成（テーマの焦点化、情報整理）	同上
第24回		事例報告書作成（文献検討、考察、まとめ）	同上
第25回		客観的臨床能力試験 実践的臨床技能（作業療法評価、治療介入、作業療法臨床推論）	五百川和明・倉澤茂樹・曾根稔雅・澄川幸志・藤田貴昭・石川陽子・川又寛徳・浅尾章彦・川崎伊織・三橋佑平・田中善信・木村夏実・松本大典・小笠原牧（作業療法学科）
第26回		客観的臨床能力試験 実践的臨床技能（作業療法評価、治療介入、作業療法臨床推論）	同上
第27回		客観的臨床能力試験 実践的臨床技能（作業療法評価、治療介入、作業療法臨床推論）	同上
第28回		客観的臨床能力試験 実践的臨床技能（作業療法評価、治療介入、作業療法臨床推論）	同上
第29回		客観的臨床能力試験 実践的臨床技能（作業療法評価、治療介入、作業療法臨床推論）	同上
第30回		客観的臨床能力試験 実践的臨床技能（作業療法評価、治療介入、作業療法臨床推論）	同上
テキスト	3年次までに活用したテキスト		
参考書	なし（配布資料）		
成績の評価方法	客観的臨床能力試験70%、レポート30%		
その他	1）客観的臨床能力試験では各項目で60%以上の得点で合格とする。 2）客観的臨床能力試験に不合格となった場合、1週間後に再試験を1回に限り実施する。		

科目名	作業療法発展領域論【保健4】	科目名(英語)	作業療法発展領域論
区分	専門科目(作業療法治療学)	単位数	1.0
担当責任者	林博史		
開講年次	4	教室	講義室
必修/選択	選択	授業形態	講義
受講要件			
授業の概要			
<p>これからの作業療法の新たな発展領域として期待されている、認知症リハビリテーション、リハビリテーション工学分野、特別支援教育分野、司法分野、行政機関、脳科学系やがんの研究分野、さらに起業など、幅広い分野で活躍している医師や作業療法士から、各分野・領域での作業療法の役割と有用性、今後の将来展望について学ぶ。さらに、医療・保健・福祉の枠を超えた新たな分野の作業療法の取り組みや作業療法の更なる可能性について学ぶ。</p>			
学習目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法の発展領域と作業療法の有用性について理解する。 2. 作業療法の発展領域の将来展望について考察できる。 			
授業内容(学習項目)			
回数	日時・場所	項目・内容(キーワード等)	担当教員
第1回		作業療法の可能性、発展領域	林博史
第2回		新たな認知症リハビリテーション	林博史
第3回		リハビリテーション工学系分野における作業療法の役割	浅尾章彦
第4回		特別支援教育分野における作業療法の役割	倉澤茂樹
第5回		司法分野の作業療法士の役割	鶴見隆彦(湘南医療大学)
第6回		行政機関における作業療法	石橋裕(首都大学東京)
第7回		脳科学系研究分野の作業療法	川崎伊織
第8回		生活用具における作業療法の視点	林園子(一般社団法人ICTリハビリテーション研究会)
第9回		ICTと作業療法	林園子(一般社団法人ICTリハビリテーション研究会)
第10回		アニマルセラピーにおける作業療法士の視点	岡本宏二(一般社団法人ふくしまをリハビリで元気にする会)
第11回		保育と作業療法	岡本宏二(一般社団法人ふくしまをリハビリで元気にする会)
第12回		リハビリテーション研究機関で働く作業療法士(ロボット)	中村美緒(国立リハビリテーションセンター研究所)
第13回		リハビリテーション研究機関で働く作業療法士(福祉用具機器評価)	中村美緒(国立リハビリテーションセンター研究所)
第14回		がん研究最前線で働く作業療法士	華井明子(国立がん研究センター中央病院)
第15回		がん研究最前線で働く作業療法士	華井明子(国立がん研究センター中央病院)
テキスト	なし(授業資料配布)		

参考書	なし
成績の評価方法	レポート100%
その他	

科目名	地域作業療法学実習【保健4】	科目名(英語)	地域作業療法学実習
区分	専門科目	単位数	1.0
担当責任者	川又寛徳		
開講年次	4	教室	
必修/選択	選択	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
<p>地域作業療法学、地域作業療法学演習で学んだ知識・技術をもとに、様々な健康課題を抱えて地域で生活する対象者への作業療法プロセスの経験を通して、実地的な地域住民活動の支援ができることを目指す。内容としては、週1回1日6時間、計5回の実習を行い、実習内容の報告を行う。実習にあたり、担当教員は各事業所との調整及び学生指導を行うが、学生が主体的に保健師やケースワーカー等に関わり、指導者の指導・監督の下、学生の習熟度や対象者の安全面を考慮した上で、地域の健康課題を解決するために作業療法評価、計画、支援を実施する。</p>			
学習目標			
<p>1) 福島県内で実践されている地域住民の介護予防事業等において、各事業目的に沿った作業・余暇活動等を提供する。 2) 上記1の成果をまとめ、効果的に発表する。</p>			
授業内容(学習項目)			
項目・内容(キーワード等)		担当教員	
<p>1回目：オリエンテーション 2回目：事前準備：実習先の事業目的の確認 3回目：事前準備：実習計画の立案 4回目～33回目：地域実習・1日6時間、5回 34回目～36回目：発表準備 37回目～44回目：発表 45回目：まとめ</p>		川又寛徳、倉澤茂樹、小笠原牧、田中善信、松本大典	
テキスト	○地域作業療法学 作業療法学全書 第13巻 改訂第3版 協同医書出版		
参考書	●地域に根ざした作業療法 理論と実践 ScaffaME (山田孝・監訳) 協同医書出版		
成績の評価方法	レポート100%		
その他			

科目名	臨床実習Ⅴ（作業）【保健4】	科目名（英語）	臨床実習Ⅴ（作業）
区 分	専門科目（臨床実習）	単位数	8.0
担当責任者	五百川和明		
開講年次	4	教室	臨床実習施設
必修／選択	必修	授業形態	実習
受講要件			
授業の概要			
<p>本実習は対象者への一連の作業療法プロセスの経験を通して、作業療法士としての基本的臨床技術、臨床推論、態度の習得を目指す。内容としては、対象者の治療方針やリハビリテーションゴールを基に、作業療法評価から作業療法治療介入の一連の実践過程を経験する。学生は臨床実習指導者の指導・監督の下で、指導者が行う治療の補助を通じ、作業療法評価や治療の過程における基本的臨床技術や臨床的思考過程・推論等を学ぶ。さらに、各実習施設の地域医療の役割に即した作業療法についても学ぶ。本実習は、4年次前期の8週間の臨床実習であり、各障害領域の施設で実施する。教員は学生の実習状況を確認し、学生への教育指導に加え、実習指導者への実習指導に関する教育的な助言や調整を行う。担当教員は定期的に学生および実習指導者と連絡をとって指導するとともに現地巡回を行って指導する。本科目は、本学部がキーワードとしている「地域医療」に関連する科目である。</p>			
学習目標			
<p>1) 対象者の治療方針やリハビリテーションゴールを基に、作業療法評価や治療の過程における臨床的思考過程・推論について、指導者の考えを理解し、説明することができる。</p> <p>2) 対象者への一連の作業療法プロセスを通して、対象者にとって意味のある作業を考察し、作業療法の意義を説明することができる。</p> <p>3) 臨床実習指導者の作業療法治療場面の一部を補助することができる。</p> <p>・対象者に必要な作業療法介入について、指導者の考えを理解し、説明することができる。</p>			
授業内容(学習項目)			
項目・内容（キーワード等）		担当教員	
<p>1 週目 オリエンテーション、施設内各部署業務見学、作業療法場面（評価、治療）見学</p> <p>2～6 週目 作業療法評価実施、作業療法治療場面補助、多職種カンファランス等、教員訪問指導</p> <p>7～8 週目 作業療法治療場面補助、まとめ</p> <p>* 実習開始前学内オリエンテーションや実習後の報告会などは別途日程で実施する。</p>		<p>臨床実習指導者（各実習施設）、五百川和明、倉澤茂樹、曾根稔雅、澄川幸志、藤田貴昭、浅尾章彦、川崎伊織、石川陽子、川又寛徳三橋佑平、小笠原牧、田中善信、木村夏実、松本大典（作業療法学科教員）</p>	
テキスト	臨床実習共通要綱、臨床実習Ⅴ要綱		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ●3年次までに使用した教科書 ●必要に応じて紹介する 		
成績の評価方法	実習報告書60%、症例報告（発表及び報告書）20%、ポートフォリオ20%		
その他			